

### 【概要】

2025年には団塊の世代が75歳以上となり少子高齢化により医療・介護ニーズはさらに増大し、医療は従来の病院完結型から地域完結型へと変化している。厚生労働省によると、認知症を患う人は700万人を超えると予測されており、住み慣れた環境で最期まで暮らせるよう支えていく必要がある。外来看護師は従来の処置・治療の介助だけではなく患者の生活が円滑に送れるよう支援することが重要となる。今年度、固定チームナーシングに基づいて複数名いる外来管理者の管理体制を見直した。外来看護の役割や機能について各自学習を深め、医療・看護を継続させるための取り組みをはじめ外来看護の強化策について検討を重ねた。病棟との連携体制を強化し在宅にケアを繋ぐことを外来の目標に掲げ、固定チームナーシングのチーム活動が活発に行われた結果、70%以上の目標到達に至った。又、認知症・せん妄発症のリスクが高い患者への早期介入については、管理者が研修に参加し能力を高めるとともに認知症ケア加算取得に向けて体制を整備した。結果、外来を含めた必要な部署に認知症ケアについて指導できる管理者を配置し認知症ケアに関する体制を構築することができた。今後は、外来と病棟に所属する2名の認知症看護認定看護師が外来・病棟の継続看護を効果的に実践できる体制を整備する予定である。

### 【背景】

当院は、751床の特定機能病院である。大学がある大阪府枚方市の65歳以上の人口比率は平成25年23%であるが20年後には30.9%になると予測され当院を受診する患者も高齢化することが予測される。高齢化に伴い認知症やせん妄発症のリスクは高くなり、外来から早期に看護介入し安心して治療を受け合併症なくスムーズに住み慣れた自宅に退院できるよう支援する必要がある。その為には、外来・病棟の継続看護は重要であり初診で関わる外来看護師の役割は要となる。今回、外来担当看護副部長として、外来の固定チームナーシングのチーム活動が効果的に機能するよう外来の看護体制を再構築し、認知症・せん妄発症のリスクが高い患者の継続看護ができる体制を整えていく必要がある。

### 【実践計画】

1. 外来の看護体制を再構築し効果的に機能できるようにする。
2. 認知症・せん妄発症のリスクが高い患者に対して早期に看護介入し継続したケアが提供できる体制を整える。

### 【結果】

1. 外来看護体制の構築し効果的に機能できるようにする。
  - ・月1回の外来管理者ミーティングに参加し、師長が行う外来看護の強化策について検討を重ねた。そこで大学病院で求められる外来看護師の役割や機能を明らかにする必要があるという結論に至った。師長はスタッフと共に外来看護師の役割意識に関する研究に取り組み外来看護師が目指す看護師像を明らかにした。管理者ミーティングを定期開催したことは、外来管理者として看護マネジメントする上での悩みを共有し問題解決していく機会となり管理体制の再構築に繋がった。
  - ・外来管理者ミーティングでは、固定チームナーシング体制や活動内容についても検討した。外来から入院、入院から退院、退院から外来・在宅へと継続した看護を実践する為の外来・病棟連携に関

する具体的なチーム目標を立案し取り組むことができた。結果、病棟の退院支援カンファレンスに外来看護師が参加する機会が増え、診療科ごとに病棟看護師と継続看護に必要な患者情報を検討することができた。固定チーム活動報告では、3チーム全てが70%以上のチーム目標達成に至った。

2. 認知症・せん妄発症のリスクが高い患者に対して早期に看護介入し継続したケアが提供できる体制を整える。
  - ・認知症リスクが高い患者への早期介入として、外来師長を含めた対象部署の師長・副師長が認知症ケア対応力向上研修を受講し実践で指導支援できる体制を整備した。
  - ・認知症ケア加算2取得に向けて、診療情報分析センタースタッフに予測される対象患者を提示し試算を依頼した。試算結果を踏まえて看護部長に提案し病院運営委員会で承認を得ることができた。精神科医師・看護部DST委員会・認知症看護認定看護師・医療情報部スタッフ・医事課スタッフが参加する運用検討会議を開催し検討を重ね9月から算定を開始するに至った。
  - ・認知症・せん妄患者の外来・病棟連携については、外来と病棟に所属する2名の認知症看護認定看護師と月1回の面談を実施し認定活動に関する指導・相談する機会とした。2名の認定看護師は認知症患者の外来・病棟の継続看護について、互いに連携することの必要性は認識していたが必要な患者全てに実践するに至ってなかった。外来スタッフ・病棟スタッフとしての通常業務に加え認定看護師として組織横断的に活動するには体制整備を含めた支援が必要であると判断し双方の管理者に協力を求めた。結果、症例数を増えてきているものの更なる連携構築に向けて課題解決に取り組む必要がある。

#### 【評価及び今後の課題】

1. 外来・病棟連携を強化する上で外来看護師のリーダーシップは重要である。今後、目指すべき看護師像に到達できるよう管理者の取り組みを支援し、さらに医療・看護を継続させる為の取り組みをはじめ外来看護の機能強化を進めていく必要がある。
2. 今回の外来固定チーム活動を踏まえ、外来診療科と病棟がそれぞれ工夫し外来・病棟連携した。外来を中心として、患者が住み慣れた環境で生活できるよう各診療科の特性を踏まえつつ効果的な外来・病棟連携のあり方について引き続き検討する必要がある。
3. 認知症看護認定看護師2名を効果的に活用し認定看護師間の連携を強化するとともに、外来看護師が中心となり認知症・せん妄患者を継続して看護できる体制を引き続き整備していく必要がある。